補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

章	頁	行	誤				Œ		
			第4回改訂版の発刊にあたって						
-	- 4		我が国 <mark>い</mark> おいては,		我が国 <mark>に</mark> おいては,				
2	34 表-2.1		硬質ゴムプレート:硬度 60 (天然ゴム)		硬質ゴムプレート:硬度 60 (天然ゴム)				
	34	衣-2.1	80 (再生	ゴムチップ)		85(粉砕繊維入り天然ゴム)			
			表-2.13 コルクプレートの物性			表-2.13 コルクプレートの物性			
			項目	規 格 値				規格	k 値
			密度 kg/m'	300 ± 30 ₩		項目		高密度タイプ	旧来タイプ
			圧縮荷重(50% 圧縮時) N/cm ¹	98.1以上		Welliam a will a			
			復元率(50% 圧縮荷重除荷後)%	90 以上		適用テールアル	*	タイプ Ⅰ , Ⅱ	タイプ I ※2
			はみ出し量(3 方間定 50% 圧縮時) mm 沸騰水中煮沸(100 cc, 3 時間)	1.5以下 崩壊しない		密度 kg/m ³		560±40 ※1	300±30 ※1
2	56	表-2.13	※密度は規格値ではなく、製品参考値	MARC CV.		圧縮荷重(50%圧縮時	N/cm ²	800以上	98.1以上
			with open with the section of the section of the			復元率(50%圧縮荷重除	荷後)%	90 J	X上
						はみ出し量(3 方固定 50%)	王縮時)mm	6.0以下	1.5以下
						沸騰水中煮沸(100℃, :	3 時間)	崩壊し	tev
						※1 密度は規格値ではなく、製		727944	
								t stant Labor Larger	halideetik ve
						※2 宅地造成等規制法施行令	第14条の規定に基	いく国土交通大臣認知	巨種壁のみ
			表-2.14 硬質ゴムブ				表-2.14 硬質	ゴムブレート	
						項目	規格		規格値
2	56	表-2.14	項 目 規格値	规格值			-0.76		transaction and the same
_	30		材 質 天然ゴム 硬度(Hs)度 60	再生ゴムチップ		材質	天然ゴ。	ム 粉碎	繊維入り天然ゴム
			現技 (HS/技 60	80		硬度(Hs)度	60		85
3	65	表-3.1	③橋台に適用する場合は、上部工の設計条件及び 反力			③テールアルメル 載する工作物等の		,,	る場合は,上
			表-4.4 設計水平震度の標準値 ko(部材の安全性及	びテールアルメ自体の安定	世熙查時)**	表-4.4 設計水平震度の標	準値 🛵 (部材の安	そ全性及びテールアル	メ自体の安定照査時)*1
				地盤種別				地盤種別	
			I種	11 種 1	11 種		I種	II種	Ⅲ種
	00	± 4.4	レベル1 地震動 0.12	0.15 0	. 18	レベル 1 地震動	0.12	0.15	0.18
4	99	表-4.4	レベル 2 地震動 0.16		. 24	レベル2地震動	0.16	0.20	0.24
			※1 「5.2.2 補強土 (テールアルメ) 壁自体の安定 係数 (ν=0.7) を乗じる。	生の検討(外的安定検討)」 ※出典:道路土エー#		※1 「5.2.2 補強土(テーム 係数 (>=0.7) を乗じる			道路土工-撫壁工指針 ¹⁹ 9 安定検討) 」時には補正
[$k_{h\nu}$:修正設計水平震度($= \nu \cdot k_i$	$k_{h\nu}$: 修正設計水平震度 $(=\nu \cdot k_h)$	(k_i)			
		7							vn/
	102		θ:地震時合成角(°)でθ	9=tan ⁻¹ k _{hr} とす	⁻ る。	ν:補正係数	Ţ		
4			` ,				A 7. 0	\	1, 1, 47
						θ : 地震時台	7双浬($\int \mathcal{C} \theta = \tan \theta$	$\kappa_{h\nu}$ \leq 9 \circ
 4	105		 また, 車両が 圧縮された雪の上を車両が			 また,圧縮され <i>†</i>		 を 宙 而が	
L	105	8	み /こ, エドリル /エ/旧 C 4 C/こ ヨ C	// 上で 中間の		あ /C,/上/HH C A U /	こヨ♥ノ <u>エ</u>	で 平門∥	

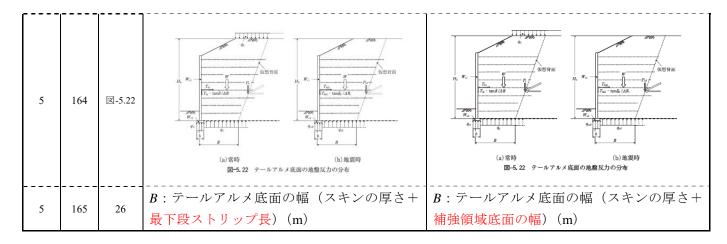
補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

4	107	4	直接設ける場合 <mark>には、</mark> 防護柵基礎の設計において	直接設ける場合の防護柵基礎の設計におい て
4	111	22	予備設計段階においては、	予備設計段階等で土質試験を行うことが困 難な場合は,
4	113	1	偏心 及び荷重の傾斜 は	偏心は
4	117	表-4.13	注 5) B: テールアルメ底面の幅 (スキンの厚 さ+最下段ストリップ長)	注 5) B: テールアルメ底面の幅 (スキンの厚 さ+補強領域底面の幅)
5	133	8	$K_i = K_0 \left(1 - \frac{z_i}{z_0}\right) + K_A \frac{z_i}{z_0}$ $z_i \le z_0 = 6.0 m$ $\mathcal{O} \succeq \mathfrak{F}$ (5.1,6) $K_i = K_A$ $z_i > z_0$ $\mathcal{O} \succeq \mathfrak{F}$	$K_{i} = K_{0}\left(1 - \frac{z_{i}}{z_{0}}\right) + K_{A}\frac{z_{i}}{z_{0}} z_{i} \leq z_{0} = 6.0m \emptyset \succeq \tilde{\Xi}$ $K_{i} = K_{A} \qquad z_{i} > z_{0} \emptyset \succeq \tilde{\Xi}$ $(5.1.6)$
5	160	24	B: テールアルメ底面の幅(スキンの厚さ+ 最下段のストリップ長)(m)	B: テールアルメ底面の幅(スキンの厚さ+ 補強領域底面の幅)(m)

補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

章	頁	行	誤	正
5	161	図-5.20	仮想背面が最上段の補強材の内側に位置している	P.95 の図-4.5 とその記述に合う図に修正 W
5	162	13	B: テールアルメ底面の幅(スキンの厚さ+ 最下段のストリップ長)(m)	B: テールアルメ底面の幅(スキンの厚さ+ 補強領域底面の幅)(m)
5	163	⊠-5.21		

補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表



補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

章	頁	行	誤	正
5	169	19	$T_{avail.i}$: ストリップの発揮可能な引張強さ(想定すべり円より奥側にあるストリップの許容引張強さ(T_A,T_{AE})または引抜抵抗力(T_P,T_{PE})の小さい方の値)(kN/m) R : すべり円弧の半径(m)	$T_{avail.i}$: ストリップの発揮可能な引張強さ(想定すべり円より奥側にあるストリップの許容引張強さ(T_A,T_{AE})または引抜抵抗力 (T_P,T_{PE}) の小さい方の値)(kN/m) θ : ストリップ位置でのすべり面の交点とすべり円中心を結ぶ直線と鉛直線とのなす角度($^{\circ}$) R : すべり円弧の半径(m)
5	169	26	予備設計段階においては,	予備設計段階等で土質試験を行うことが困 難な場合は,
5	170	(5.2.35)	$F_{sE} = \frac{\sum \{c \cdot l + (W \cdot \cos\alpha - k_h \cdot W \cdot \sin\alpha) \tan\phi\}}{\sum (\mathbf{R} \cdot W \cdot \sin\alpha + k_h \cdot W \cdot \mathbf{y}_G)}$	$F_{SE} = \frac{\sum \{c \cdot l + (W \cdot \cos\alpha - k_h \cdot W \cdot \sin\alpha) \tan\phi\}}{\sum (W \cdot \sin\alpha + k_h \cdot W \cdot \frac{y_G}{R})}$
5	182	図-5.36	第画排水溝 舗装面 のり肩排水溝 原等排水溝 原 原 原 原 原 原 原 の の の の の の の の の の の の	第面排水溝 編装面 のり肩排水溝
5	183	21	2-3-7	2-7-3

補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

5	184	図-5.38	土中集排水管 フィルター材料 (c) 土中集排水管断面図	土中集排水管 フィルター材料
5	188	1	道路拡幅の腹付け盛土 や鉄道における腹付 け線増 等のように	道路拡幅の腹付け盛土等のように
5	198	図-5.52	5%強度	5%程度
5	199	13	施工手順を ともに 考慮し	施工手順を考慮し

補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

章	頁	行	誤	正
技資 1	273	7	B: テールアルメ底面の幅 (スキンの厚さ+ 最下段ストリップ長) (m)	B: テールアルメ底面の幅(スキンの厚さ+ 補強領域底面の幅)(m)
技資 1	281	図	1:1.8 嵩上げ盛土 地盤面 基礎地盤	1000 3600 1:1.8 嵩上げ盛土 地盤面
技資 1	283	6	粘着力 c=50(kN/m²)	粘着力 c=100(kN/m²)
技資 1	310	24	$e = B/2 - d_E = -0.074 \le B/3 = 1.380 \text{(m)} \cdot \cdot \cdot \text{OK}$	$e = B/2 - d_E = 0.107 \le B/3 = 1.380 \text{(m)} \cdot \cdot \cdot \text{OK}$
技資 1	311	9	$q_a = q_u/F_s = 429.579 (kN/m^2)$	$q_a = q_u/F_s = 287.915 \text{ (kN/m}^2)$
技資 1	311	12	q _u :基礎地盤の極限支持力度=1201.273 (kN/m²)	q _u :基礎地盤の極限支持力度= <mark>863.745</mark> (kN/m²)
技資 1	311	15	$q_s = 256.323 \le q_a = 429.579 \text{(kN/m}^2) \cdot \cdot \cdot \text{OK}$	$q_s = 256.323 \le q_a = 287.915 \text{(kN/m}^2) \cdot \cdot \cdot \text{OK}$
技資 1	311	23	$q_{aE} = q_{uE}/F_{sE} = 644.369 (\text{kN/m}^2)$	$q_{aE} = q_{uE}/F_{sE} = 292.136 \text{ (kN/m}^2)$
技資 1	311	26	q _{uE} :基礎地盤の地震時の極限支持力度 = 1288.737 (kN/m²)	q_{uE} : 基礎地盤の地震時の極限支持力度 = 584.272 (kN/m²)
技資 1	312	2	$q_{sE} = 252.085 \le q_{aE} = 644.369 \text{(kN/m}^2) \cdot \cdot \cdot \text{OK}$	$q_{sE} = 252.085 \le q_a = \frac{292.136}{(kN/m^2)} \cdot \cdot \cdot OK$
技資 1	313	13	$q_a = q_u/F_s = 375.128(kN/m^2)$	$q_a = q_u/F_s = 366.837(kN/m^2)$
技資 1	313	16	q _u :基礎地盤の極限支持力度 =1125.384(kN/m²)	q_u :基礎地盤の極限支持力度(kN/m^2) = 1100.511(kN/m^2)
技資 1	313	20	$q_s = 289.300 \le q_a = 375.128 \text{(kN/m}^2) \cdot \cdot \cdot \text{OK}$	$q_s = 289.300 \le q_a = 366.837 \text{(kN/m}^2) \cdot \cdot \cdot \text{OK}$

補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル 第4回改訂版 正誤表

技資 1	314	7	$q_{aE} = q_{uE}/F_{sE} = 562.692(\text{kN/m}^2)$	$q_{aE} = q_{uE}/F_{sE} = 550.255 (kN/m^2)$
技資 1	314	10	qut:基礎地盤の地震時の極限支持力度= 1125.384 (kN/m²)	q_{uE} :基礎地盤の地震時の極限支持力度= 1100.511 (kN/m²)
 技資 1	314	13	q_{sE} =263.420 $\leq q_{aE}$ =562.692(kN/m ²) · · · OK	q_{sE} =263.420 $\leq q_{aE}$ =550.255(kN/m ²) · · · OK
技資 3	344	技資図 5-6 (SC 種)	500	1000 上鉄筋 D10@125 配力鉄筋 D13@250 配力鉄筋 D13@250 配力鉄筋 D13@250 配力鉄筋 D13@250 配力鉄筋 D13@250 の5
章	頁	行	誤	正
技資 5	393	技資図 5-6	$f_m^*/f_{\color{red}e}^*$	f m * /f *
技資 6	409	23	T: 経過時間(年)	t: 経過時間(年)
技資 6	410	2	$\Delta a = 1.1 \times 25 t^{0.80} = 55 t^{0.80} (\mu \mathrm{m})$	$\Delta a = 1.1 \times 2 \times 25t^{0.80} = 55t^{0.80} (\mu \text{ m})$
技資 6	463	注 1)	自分量	目分量

以上 2017.9